

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [生涯学習](#) | [歴史雑学](#) 7. 江戸っ子はなぜ宵越しの金を持たないのか?
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

歴史雑学 7. 江戸っ子はなぜ宵越しの金を持たないのか?

「火事と喧嘩は江戸の華」といわれるぐらい、江戸の町は火事の多い所でした。たとえば、60年に一度の大惨事と、その間の12~13年に一度の割合で大火に見舞われています。

江戸幕府は、この災害に備えて、いろいろな対策を立てています。たとえば、今も東京の町名にその名残をとどめる日本橋の堀川と深川、今は埋められてなくなってしまいましたが、三十間堀など、江戸の市中には縦横に運河が掘られ、防災・防火に役立っていたのです。

また、もともとは防衛のために分散して配置されていた大名屋敷も、いったん火事が起きると避難場所に変ったのです。大名屋敷は広大な土地を占めていて、そこにはたくさんの樹木が植えられていて、その周りを取り囲むような形で町人の家が建てられていたのですが、それはちょうど現在の住宅と公園のような関係を持っていたのです。つまり、燃え盛る火はここまでくると止められるし、町人にとってはその広さが一時的な避難場所になったわけです。

神社や仏閣の門前も道路の幅を広くとったり、火事の時に水をふくという銀杏や、燃えにくい青桐を植えて「火除地」としていました。

庶民は庶民で「うだち」と呼ばれる防火壁を建てこんだ家と家の間につくったり、壁を漆で固めたりして防災に努めたものです。また、「自身番」という、火事の早期発見のための見張り場所をつくったりもしています。テレビの時代捕物劇などで岡っ引きがひょいと隠れたりする「天水桶」なども、防火用水だったのです。

ところが、これほどあらゆる生活の知恵をしぼって防火対策をたてても、消火技術の方が何ともお粗末なもので、とうてい役に立たなかったのです。それは、江戸の水が足りなかったことと、「水鉄砲」といわれた消火ポンプが本当に子供だましの水鉄砲のようで、水圧が低く、大火の際には文字どおり焼け石に水で、江戸時代の消火方法といえば破壊消防がその主力だったのです。

そこで、いよいよ江戸っ子が宵越しの金を持たなかったゆえんが生じてくるのです。つまり、いったん火事が起きると、身体一つで逃げるのが精一杯だし、類焼を防ぐためにどんどん壊してしまうので、コツコツと蓄積しても、すぐゼロになってしまうということがあったからです。そこで、いつ火事が起きるかもしれないので、今日の稼ぎは思い切りよくその日のうちに使ってしまうということから、宵越しの金は持たない江戸っ子の気風が生まれてきたわけです。

それはともかくとしても、火事という絶望的な状況にあっても、過去のことをあれこれクヨクヨとするのを嫌って、その日をキビキビと生きていくことが、江戸っ子の誇りになっていったのです。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.